

2025年2月期 第2四半期（中間期） 決算説明資料

株式会社ワイズテーブルコーポレーション
(証券コード： 2798東証スタンダード)



2024年10月22日

1. 2025年2月期 中間期 業績概要と今期の見通し

- 2025年2月期 中間期 売上高の状況
- 2025年2月期 中間期 業績概要（連結）
- 2025年2月期 通期見通し（連結）

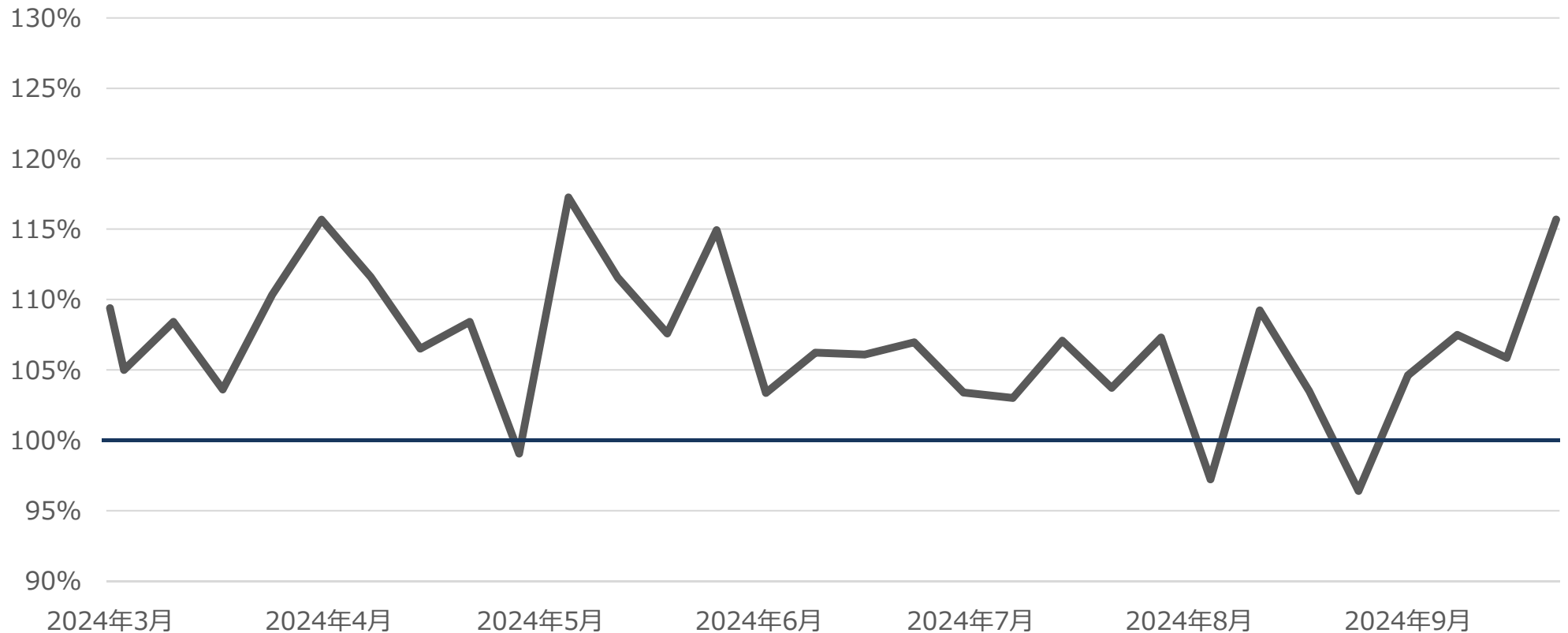
2. 当社グループの近況とトピックス

- 2025年2月期の取り組み
- CÉ LA VI TOKYO

2025年2月期 中間期 売上高の状況 - セグメント別

- 売上高は、2024年3月から5月にかけてはインバウンドの追い風等で高水準で推移。しかし7月及び8月は、猛暑・コロナ陽性者数の増加等の影響を受けた前期に比べて大幅な増収を計画していたものの、悪天候等の影響を受け、前期をやや上回る水準にとどまった。9月以降は増加傾向
- 2025年2月期中間期の既存店売上高前期比（月次ベース）：107%（XEX108%、カジュアル106%）

2024年3月から9月の直営既存店売上高前期比（週次、同曜日比較）



[参考]
2019年
同月比

107%

105%

105%

105%

100%

94%

101%

単位：百万円（百万円未満切捨て）

【 連 結 】	2025年2月期 中間連結会計期間					2024年2月期 中間連結会計期間		
	当期実績		計画 (注)		計画比	前期実績		前期比
		構成比		構成比			構成比	
売上高	5,944	100.0%	5,902	100.0%	100.7%	5,537	100.0%	107.4%
営業利益	64	1.1%	109	1.9%	59.3%	83	1.5%	77.3%
経常利益	106	1.8%	140	2.4%	75.7%	132	2.4%	80.3%
親会社株主に帰属する 当期純利益	78	1.3%	137	2.3%	57.3%	78	1.4%	100.4%
1株当たり 当期純利益	23.84円	—	41.60円	—	57.3%	23.76円	—	100.4%

(注) 2024年4月15日付で発表した中間連結会計期間計画

■ 計画比：

【売上高】

- 第1四半期は、外食需要の回復やインバウンド需要の増加等により好調に推移。ただし夏場は台風や猛暑の影響で伸び悩み

【営業利益】

- 当初計画外の直営店舗2店舗の新規出店及び「XEX WEST」の休業・全面改装等、付加価値向上の投資に取り組んだこと、人材確保にかかる費用の増加等により計画、前年同中間期実績ともに下回った

【経常利益】

- 持分法による投資利益（株式会社ICONIC LOCATIONS JAPAN）が予想を上回った

【親会社株主に帰属する当期純利益】

- 減損損失2百万円を計上、法人税等調整額23百万円（利益に対してマイナス効果）を計上

■ 前年同中間期比：売上高は前年同中間期を上回ったが、今後に向けての新規投資を行ったことにより営業利益、経常利益ともに減益となった

2025年2月期 中間期 業績概要 (連結貸借対照表)

単位：百万円（百万円未満切捨て）

科目	当中間連結 会計期間	前連結会計年度	増減	科目	当中間連結 会計期間	前連結会計年度	増減
現金及び預金	1,794	1,792	1	買掛金	537	451	85
売掛金	697	613	83	短期借入金（注）	272	222	50
原材料及び貯蔵品	174	155	19	未払金	676	592	83
その他	259	245	13	閉店損失引当金	13	13	-
流動資産合計	2,925	2,807	118	契約負債	78	64	13
有形固定資産	895	767	128	株主優待引当金	65	64	0
建物及び構築物（純額）	703	622	80	その他	338	316	21
その他（純額）	191	144	47	流動負債合計	1,981	1,725	256
無形固定資産	9	4	5	長期借入金	1,577	1,689	▲111
その他	9	4	5	資産除去債務	832	815	16
投資その他の資産	1,110	1,136	▲26	その他	53	67	▲14
投資有価証券	149	135	13	固定負債合計	2,463	2,572	▲108
長期貸付金	258	298	▲40	負債合計	4,444	4,297	147
敷金及び保証金	590	575	14	株主資本合計	495	417	78
その他	112	127	▲14	その他	0	0	0
固定資産合計	2,015	1,907	107	純資産合計	496	417	78
資産合計	4,940	4,715	225	負債純資産合計	4,940	4,715	225

売掛金・原材料及び貯蔵品・買掛金・未払金の増加：営業活動の活発化による
 有形固定資産の増加：新規出店及び店舗設備の維持更新工事を行ったことによる
 投資有価証券の増加：持分法適用会社が利益を計上したことによる
 長期貸付金の減少：返済を受けたことによる

短期借入金の増加：新規借入の実施による
 長期借入金の減少：返済実施による
 株主資本の増加：親会社株主に帰属する当期純利益の計上による

（注）短期借入金には1年内返済予定の長期借入金を含む

2025年2月期 中間期 業績概要 (連結キャッシュ・フロー計算書)

区分	当中間連結会計期間	前中間連結会計期間
営業活動によるキャッシュ・フロー	224	195
税金等調整前当期純利益又は税金等調整前当期純損失(▲)	104	111
減価償却費	78	85
減損損失	2	20
持分法による投資損益 (▲は益)	▲13	▲10
売上債権の増減額 (▲は増加)	▲83	▲102
棚卸資産の増減額 (▲は増加)	▲19	▲14
仕入債務の増減額 (▲は減少)	85	73
未払消費税等の増減額 (▲は減少)	▲67	▲63
利息及び配当金の受取額	2	31
その他	135	63
投資活動によるキャッシュ・フロー	▲153	▲74
有形固定資産の取得による支出	▲172	▲144
貸付金の回収による支出	40	80
その他	▲20	▲9
財務活動によるキャッシュ・フロー	▲69	▲178
短期借入金の増減額 (▲は減少)	50	▲108
長期借入金の返済による支出	▲111	▲52
リース債務の返済による支出	▲8	▲16
自己株式の取得による支出	▲0	-
現金及び現金同等物の増減額 (▲は減少)	1	▲56
現金及び現金同等物の期首残高	1,792	2,041
現金及び現金同等物の期末残高	1,794	1,984

単位：百万円
(百万円未満切捨て)

(注)
主要項目のみ記載

・ 営業活動によるキャッシュ・フローを用いて新規出店・店舗の改修と、借入金の返済を実施

単位：百万円（百万円未満切捨て）

科目	2025年2月期 通期計画 修正予想（注1）	2025年2月期 通期計画 当初予想（注2）	2025年2月期 通期計画 当初予想との差異	2024年2月期 通期実績	2024年2月期 通期実績との差異
売上高	12,069	11,936	101.1%	11,284	107.0%
営業利益	225	327	68.8%	179	125.3%
経常利益	338	434	78.1%	311	108.8%
親会社株主に 帰属する 当期純利益	306	427	71.8%	113	269.5%

（注1）2024年10月15日付で発表した通期計画

（注2）2024年4月15日付で発表した通期計画

■ XEXグループ

- ・下期の既存店売上高を2024年2月期比104%で設定
- ・特に、全面改装を行った「XEX WEST」について高付加価値化に伴う売上増を見込む

■ カジュアルレストラングループ

- ・下期の既存店売上高を2024年2月期比105%で設定
- ・既存店について単価調整等により前年を上回る売上高を確保するとともに、新規店舗の貢献を見込む

■ 営業利益

- ・大型店舗の改装及び改装後の販促実施にかかる費用の発生を見込む
- ・人件費及び人材確保・育成に関するコストの増加を織り込み
- ・これらの結果当初予想から利益予想を下方修正するが、来期以降の成長に向け先行して発生する費用という位置付け

1. 2025年2月期 中間期 業績概要と今期の見通し

- 2025年2月期 中間期 売上高の状況
- 2025年2月期 中間期 業績概要（連結）
- 2025年2月期 通期見通し（連結）

2. 当社グループの近況とトピックス

- 2025年2月期の取り組み
- CÉ LA VI TOKYO

- 今後の成長に向け以下の施策に取り組んだ

課題・テーマ

中間期の振り返り

コロナ後の 事業成長

高付加価値化

- 大型店の改装・美装を行い付加価値向上（「XEX WEST」等）

インバウンド

- 高級店、観光地・ターミナル立地店舗を中心に好調に推移
- 8月は悪天候の影響あり

和食事業の強化

- 焼鳥店「ぎおん刀」を京都に出店
- 「XEX WEST」の和食セクションを全面リニューアル

カジュアルイタリアン 事業の展開

- 郊外SCへの出店（テラスモール湘南、軽井沢）
- 当社の強みを生かしたピッツェリア業態の出店

人材不足・コスト高騰への対応

- 待遇改善に取り組むも人材不足の状況継続
- 調達見直し、メニューミックス調整等により食材原価の上昇は抑制

- 中間期に実施した取り組みの確立、強化を進め、今後の売上高の確保と、収益構造の改善につなげていく

課題・テーマ

下期の取り組み

コロナ後の 事業成長

高付加価値化

- 大規模改装は一段落
- 人材確保、設備更新によってソフト、ハード面の質を向上し、単価引き上げを図る

インバウンド

- 高級ホテル、旅行代理店との提携強化
- 訪日外国人向けのネットプロモーション強化

和食事業の強化

- 和食・鮭職人の採用強化や外部提携などによる内容強化

カジュアルイタリアン 事業の展開

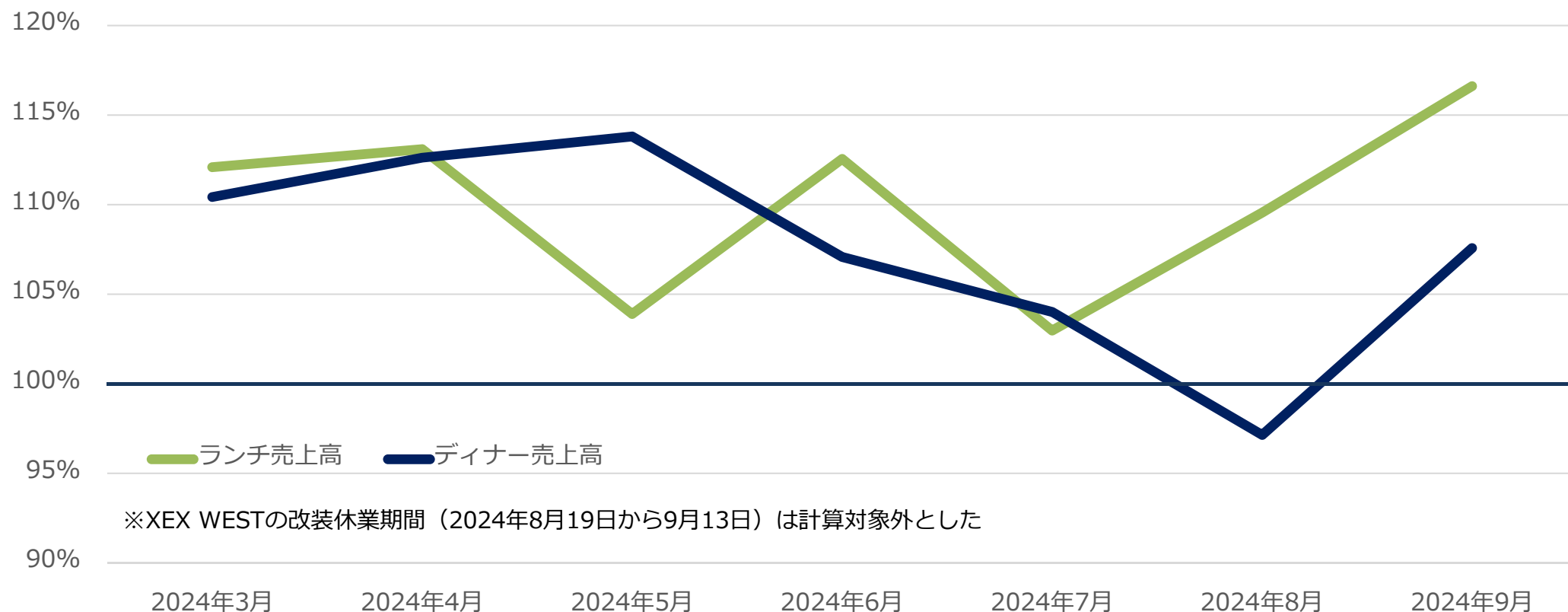
- 成長余地のある郊外SC出店の強化

人材不足・コスト高騰への対応

- 引き続き待遇改善に取り組み人材不足解消を図る
- 食材・資材の調達見直しを継続

- 2024年3月から5月はランチ、ディナーともに好調だったが、7月、8月はディナー売上が低調。季節的に法人需要が落ちるが、この下落分を個人需要で埋めることができなかったことに加え、台風等の影響も受けた。9月以降は回復基調
- ランチはディナーに比べ個人需要が多い。ランチビュッフェは夏場においても好調で、安定した売上を計上

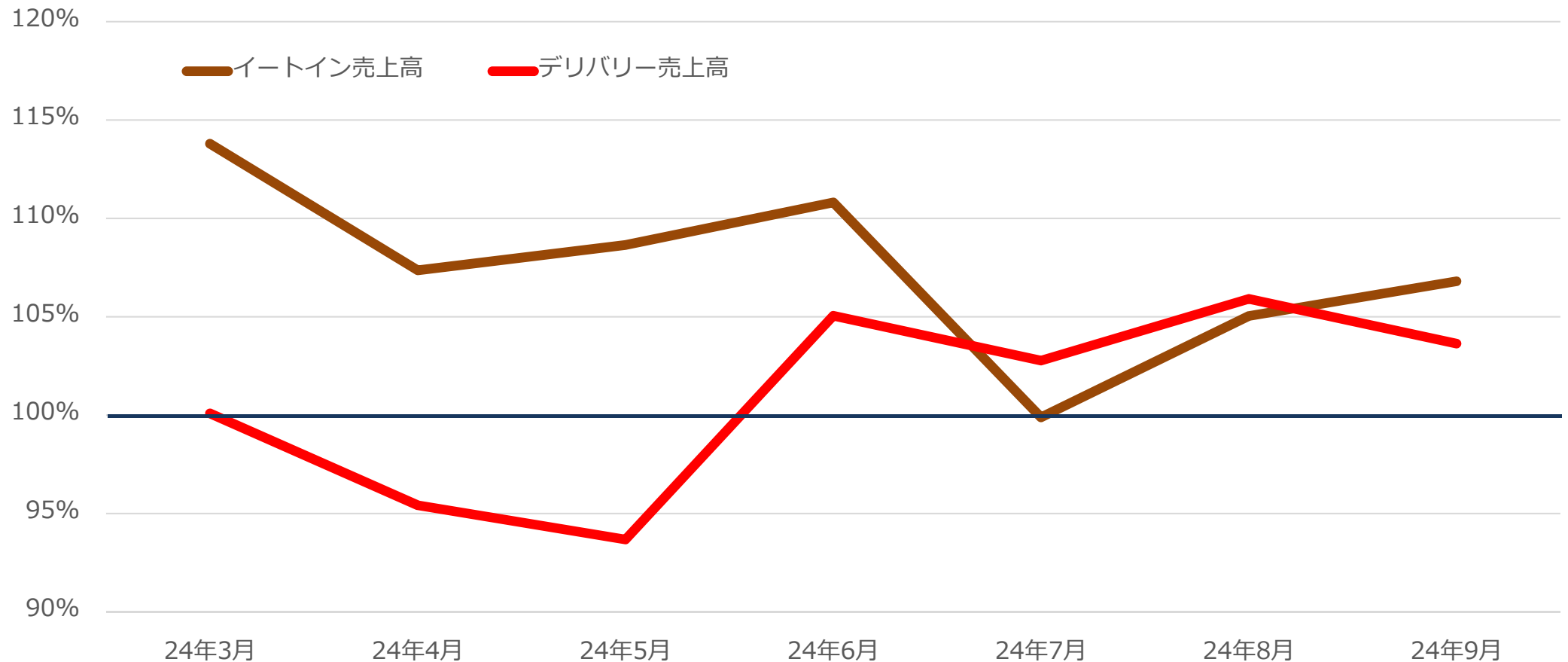
XEXグループ既存店 時間帯別前年比（同月比較）



カジュアルレストランググループの売上推移

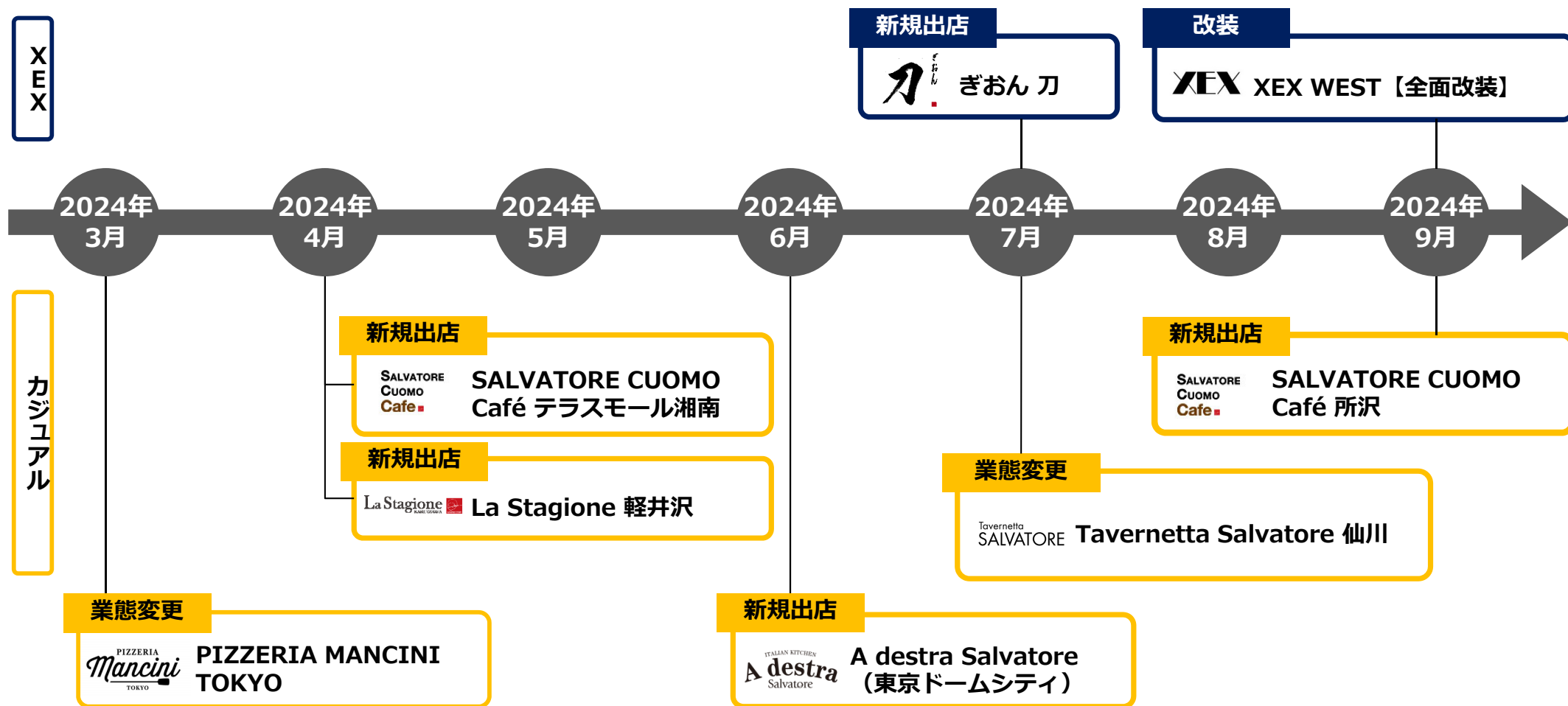
- イートインは、2024年3月から6月まで好調に推移したが、猛暑によるテラス稼働率の低下や悪天候の影響により7月、8月は低調。9月以降持ち直している
- デリバリーは減収傾向が底を打ち、2024年6月以降前年比プラスに

カジュアルレストランググループ既存店 業態別前年比（同月比較）



2025年2月期 出退店・大規模改装

- 2025年2月期中間期は新規出店・大規模改装と、不採算店舗の整理を実施
- 2025年2月期下期はこれら新規店舗・改装店舗の確立、ブラッシュアップに取り組む



- 関西における旗艦店「XEX WEST」を全面的に改装（2024年9月14日リニューアルオープン）

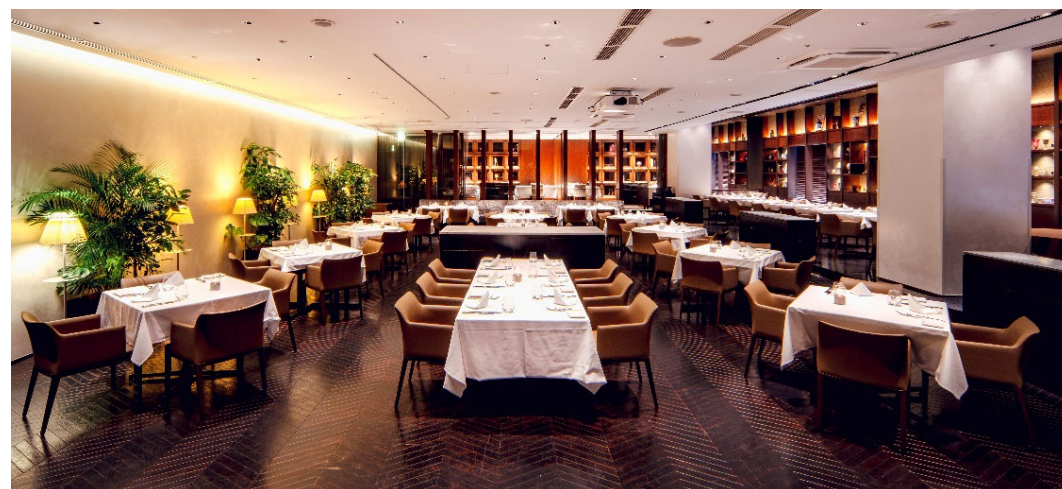


開業：2004年11月

所在地：大阪府大阪市北区梅田

立地：商業施設（ハービスエント7階）

規模：約400坪（240席）



- 大阪エリアは、大阪・関西万博開催（2025年）、IR開業（2030年頃）が予定され、インバウンド市場の拡大が見込まれる
- イタリアン、和食、BARの3セクションを備える強みを更に強化し、インバウンド、国内富裕層のニーズに対応

- 京都 祇園に、焼鳥をメインとする高級業態「ぎおん 刀」をオープン

既存店舗



炭火串焼 こけこっこ 京都



開 業：1997年9月

所在地：京都府京都市下京区

立 地：百貨店（ジェイアール京都伊勢丹10F）

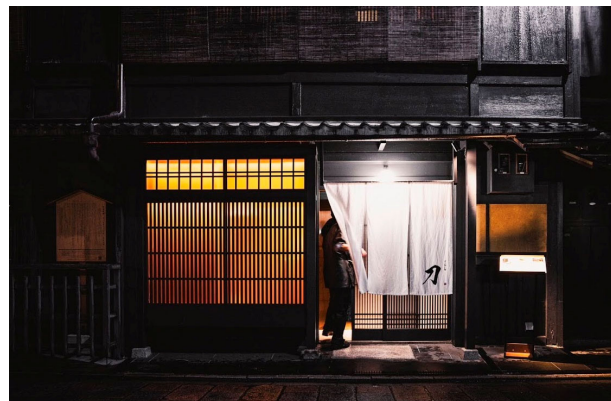
客単価：約5,000円（ディナー）

客 層：百貨店のお客様に加え、地元ビジネス需要、インバウンドも多い

新規店舗



ぎおん 刀



開 業：2024年7月25日

所在地：京都府京都市東山区

立 地：繁華街・観光地（祇園）

客単価：約15,000円（ディナー）

客 層：地元富裕層、インバウンド、国内旅行客が中心

- 和食事業の強化として、焼鳥の高級業態をオープン
- インバウンドをメインターゲットとして内装にもこだわり、高付加価値を提供

- Salvatoreの新業態「A destra Salvatore」を、東京ドームシティに新規にオープンしたフードホール「FOOD STADIUM TOKYO」にオープン

ITALIAN KITCHEN
A destra
Salvatore

開業：2024年6月24日

所在地：東京都文京区

立地：フードホール（東京ドームシティ内）

規模：フードホール全体で480席



- 都会型フードコート（フードホール）業態を開発
- ピッツァ、パスタを中心にアンティパストやスイーツメニュー、テイクアウトメニューを強化

● 郊外の大型SCへの出店により店舗展開可能性を拡大



テラスモール湘南

所在地： 神奈川県藤沢市
施設年商： 531億円（2023年12月期）
運営： 住商アーバン開発

SALVATORE CUOMO Cafe

2024年4月11日オープン



軽井沢プリンスショッピングプラザ

所在地： 長野県北佐久郡軽井沢町
施設年商： 565億円（2024年3月期）
運営： 西武リアルティソリューションズ

La Stagione
KARUIZAWA SALVATORE CUOMO

2024年4月27日オープン



エミテラス所沢

所在地： 埼玉県所沢市
施設年商： 300億円（初年度目標）
運営： 西武リアルティソリューションズ
住友商事

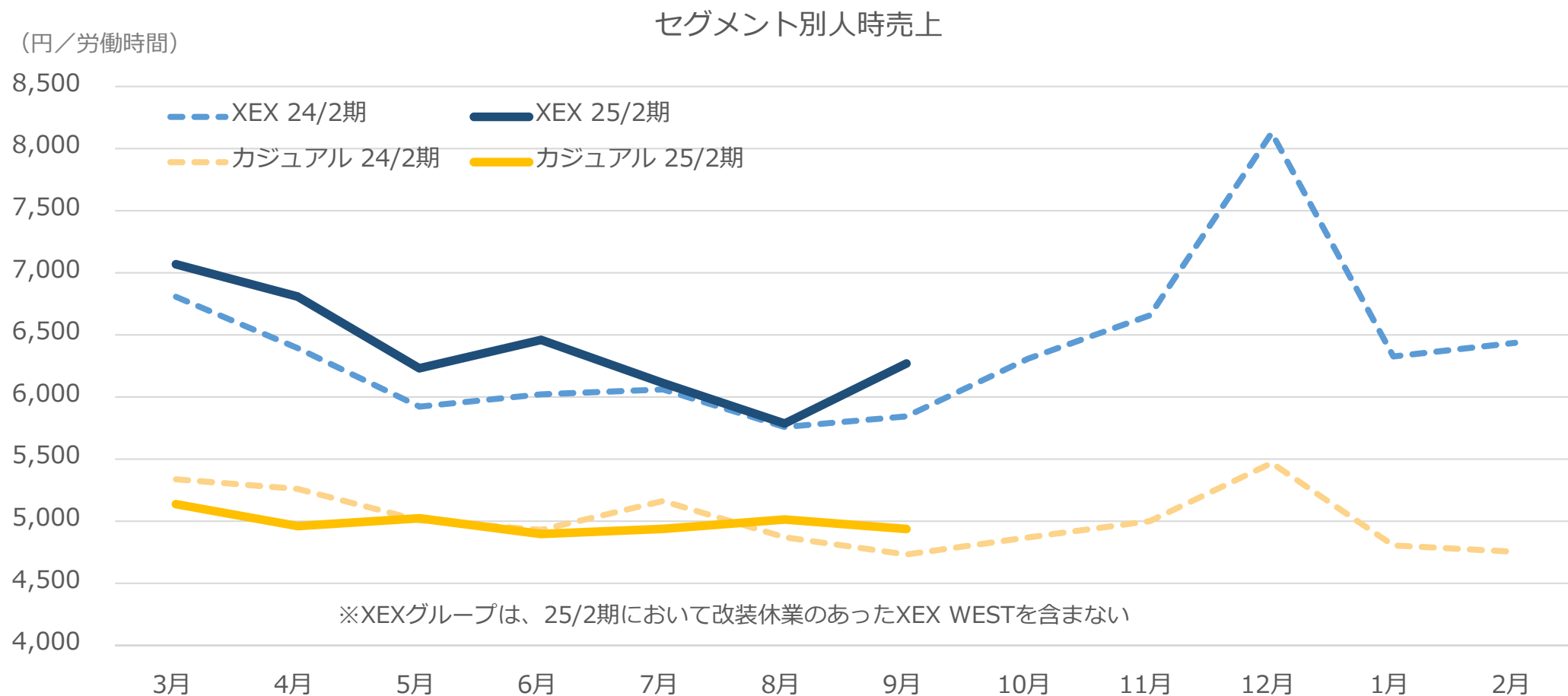
SALVATORE CUOMO Cafe

2024年9月24日オープン

- SALVATOREの本格イタリアンに加え、デザートやカフェタイムメニューを強化
- 郊外大型SCにおけるハレの日需要を取り込み、順調な立ち上がり

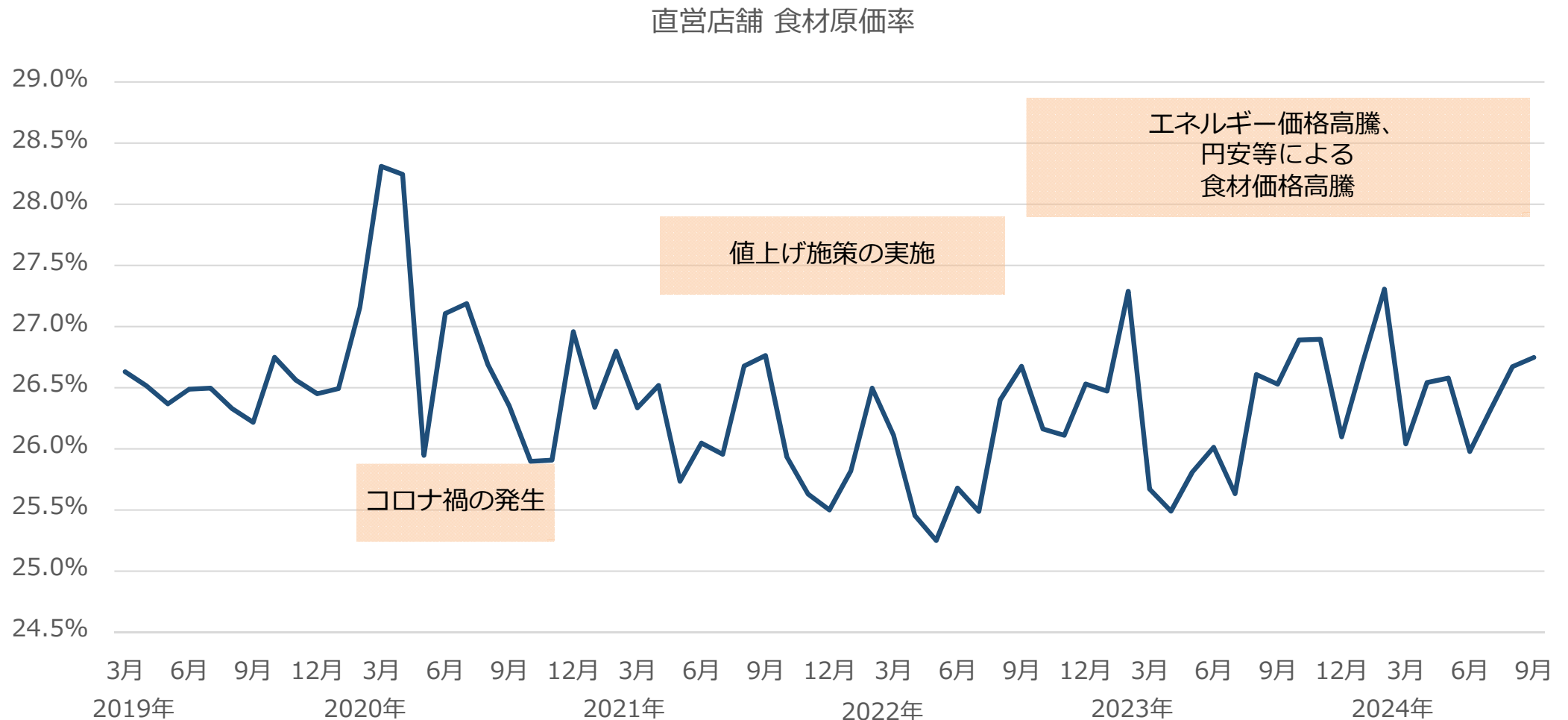
* 各SCの施設年商は「23年度SC売上高ランキング」（織研新聞、2024年8月7日）による

- 客単価の引き上げによりXEXグループの人時売上は改善傾向
- 一方カジュアルレストラングループは、売上が回復傾向にある中でも人時売上が横ばいであり、引き上げが課題
- 人材獲得が困難な状況は今後も続くと見込まれる。生産性の改善に取り組み、より少人数で売上・利益をあげる体制を目指す



原価率の推移（直営店食材原価率）

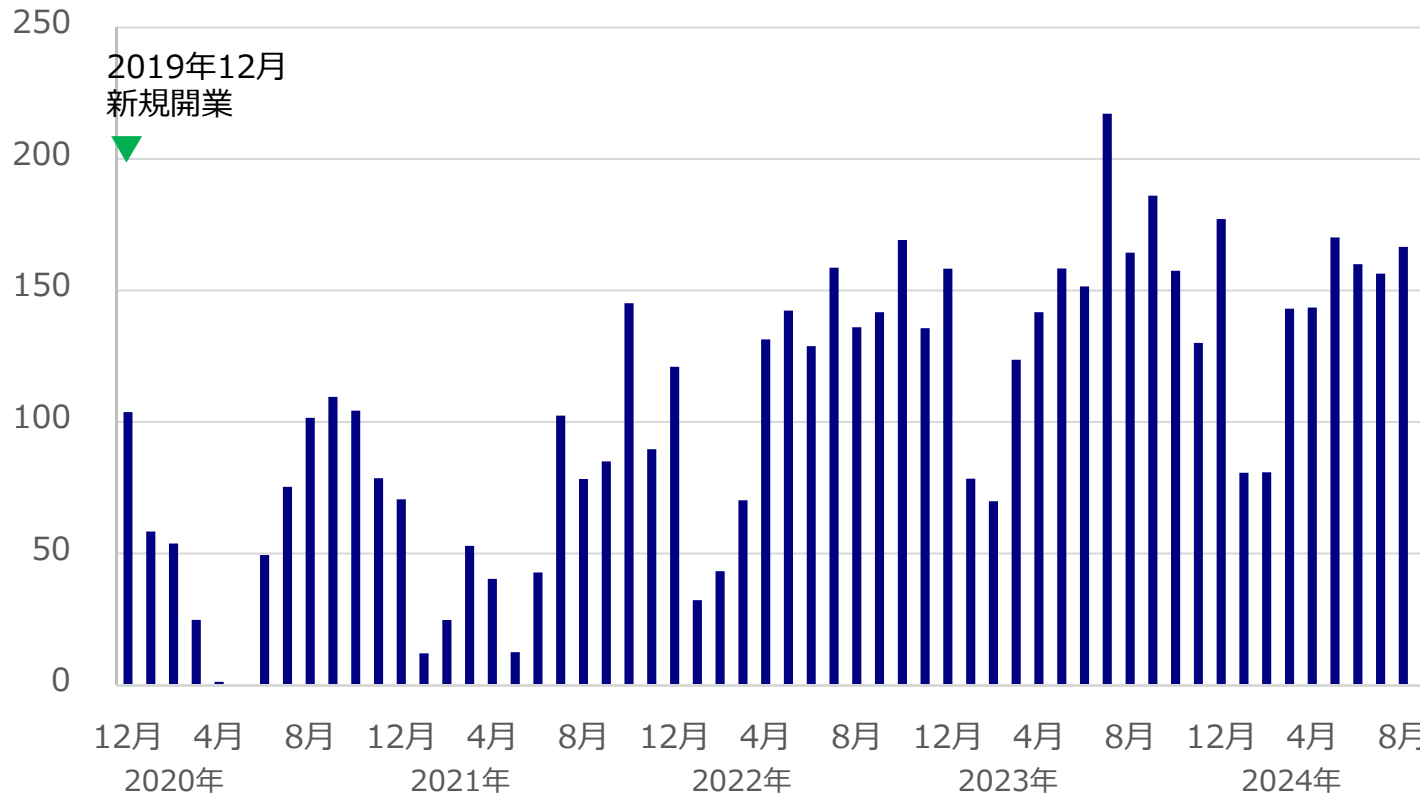
- 2022年以降、国際情勢、エネルギー価格高騰、更に円安の進行等を受けて食材価格の高騰が進んでいる
- 値上げ施策に加え、食材・資材の見直しやメニューミックスの工夫により、現状でも、食材原価率はコロナ前の水準並みを維持している
- 今後も食材価格の更なる高騰が見込まれるが、引き続き食材・資材の見直しに取り組み、原価率の抑制を図る



- 2024年夏場は、大規模な貸切パーティーがなかったこと、特に週末に悪天候が多かったことの影響を受けたものの、概ね前年を超える売上を確保
- クラブラウンジは夏に国内で行われた大型ミュージックフェスティバルのアフターパーティーを数多く開催。BAOのデイパーティー「SUNSET BBQ」も好評を博した
- 2024年10月から12月の期間は開業5周年企画を実施、ブランド力を更に強化

(単位：百万円)

CÉ LA VI TOKYOの売上推移



セグメント		主な事業内容	会社名	主な店舗名
XEX グループ	国内	高級レストラン等の運営	株式会社ワイズテーブルコーポレーション	XEX The Kitchen Salvatore Cuomo 名古屋 The Kitchen Salvatore Cuomo 京都 The Kitchen Salvatore Cuomo 三宮 毛利 Salvatore Cuomo atelier 森本 XEX ぎおん 刀
	国内	カジュアルレストラン等の運営	株式会社ワイズテーブルコーポレーション	PIZZA SALVATORE CUOMO SALVATORE CUOMO & BAR PIZZA SALVATORE CUOMO & GRILL PASTA & PIZZA Salvatore Cuomo PRESTO Salvatore Cuomo 伊太利亜市場BAR こけこっこ とんかつ&焼鳥 An Salvatore Cuomo 市場 Paul Bassett The Kitchen Salvatore Cuomo 銀座 PIZZA & PASTA SALVATORE SALVATORE CUOMO & GRILL PIZZERIA MANCINI TOKYO SALVATORE CUOMO Café
カジュアル レストラン グループ	海外	カジュアルレストラン等の運営	株式会社ワイズテーブルコーポレーション	SALVATORE CUOMO & BAR (Manila)
	国内	人材派遣事業（休眠中）	株式会社パートナーワイズ	—
その他の 事業	国内	人材派遣事業（休眠中）	株式会社パートナーワイズ	—

本資料は情報提供を目的としており、株式購入や売却などを勧誘するものではありません。本資料には当社の出店計画や業績見通しなどが含まれております。

将来の計画・予測に関しましては、現時点で入手可能な情報もとに当社が合理的であると判断する一定の前提に基づき当社が作成したものでありますが、リスクや不確定要素を含んでおり、実際の業績等は様々な要因により大きく異なることがあります。

問い合わせ先：経営企画グループ
TEL：03-5412-0065